

新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日 時：令和7年6月12日(木) 16:30～17:30
場 所：脳研究所 A棟 1階 検討会室

マーモセットのこころとからだを理解する ；飼育下と野生の行動観察



山崎 由美子 先生

新潟医療福祉大学
心理・福祉学部心理健康学科・教授

ヒトを含む霊長類は世界の様々な地域に適応し、多様な行動的特徴を発達させてきました。マーモセットは南米を原産とした小型の霊長類で、体重は300から400g程度、樹上生活を営み、鉤爪で樹をよじ登り、樹皮を噛んで樹液を舐めます。これらの特徴は、ヒトとは明らかに大きく異なります。その一方で、一生の大半を家族単位で過ごし、家族全員で子育てをし、食物を分かち合い、頻繁に発声してコミュニケーションをとる、というように、ヒトと共有する部分も少なくありません。このようなマーモセットは、遺伝子改変動物作成成功という報告を機に、次世代動物モデルとして注目されるようになりました。私たちは、認知運動機能の評価系として、利き手、記憶、概念、道具使用などの行動課題の作成を行ってきました。その結果、マーモセットは物理的概念、関係概念による反応を示しました。道具使用行動を訓練した際には、ニホンザルと比べ大きな違いがあることが示され、マーモセットの独自の認知進化を裏付ける結果となりました。

一方、飼育下のマーモセットが体調不良に陥ることも少なくなく、独自の慢性的な疾患が確認されました。このような問題に直面する中で、私は野生個体の生態を観察する機会を得、マーモセットの食餌摂取における特徴が問題解決の鍵となる、と考えるに至りました。本セミナーでは、マーモセットに対する私たちの行動実験の結果をいくつか紹介し、他の霊長類と比べてどのような点が特徴的なのかを議論します。また、マーモセット野生個体の生活を紹介し、それらの知見を飼育下個体の管理に活かす可能性についても論じたいと思います。

どうぞ奮ってご参加ください。（担当：脳研究所 動物資源開発研究分野）

